



ア カップ オブ ウォーター

## a cup of water ニュースレター

私達はキリスト教精神に基づき、世界の困難な状況にある子ども達を支援する NPO です。

NO. 6 2011年8月

大切な支援者の皆様へ

かけがえのないご支援に心から感謝します。

- 成長するために必要な十分な食事を毎日食べること。
- 学校に通い、読み書きや、数を数えることなど、生きるために必要な知識を学ぶこと。
- 予防することができる病気や社会に蔓延する犯罪、暴力から守られること。

これらのことはタイやカンボジアの多くの子ども達にとって決して当然のことではありません。

私達ひとりひとりの力は小さく、とるに足りないものですが、みなさんの温かい思いが集められ、

こうして子ども達に少しでも助けの手を差し伸べることができることを感謝します。



～a cup of water として決意をあらたに～

2011年の3月25日～31日に、7人のチームでタイ・カンボジアのハッピーホームを訪ねました。a cup of water として、タイは4年ぶり、カンボジアは1年半ぶりの訪問です。子ども達の成長は私たちにとって大きな喜びであるとともに、ハッピーホームへ継続的な経済支援をすることの大切さを改めて認識する時となりました。



人身売買や虐待など、子ども達の過去を思う時、一人一人が互いに支えながら心身ともに成長していることは、それだけで奇跡なのです。

世界中では今、多くの孤児院が経済的な事情から閉鎖に追い込まれています。子ども達にとって、最後の受け皿である孤児院がなくなることは、全ての保護を失い、危険の満ちた世界に投げ出されることを意味します。

ハッピーホームには他の社会福祉施設から、

行くあてのない子ども達を引き取ってほしいという依頼が絶えません。カンボジアのハッピーホームでは、この1年間で子どもが8人も増えました。

タイ・カンボジア孤児院 HAPPY HOME を訪ねる旅  
2011年3月25日(金)～31日(木)  
ご報告と参加者による現地レポート！



## スケジュール

- 25日(金) 夜 関空集合  
26日(土) 深夜 関空出発→早朝5時 バンコク到着  
国内線にてタイ北部へ移動  
    ハッピーホーム チェンライ訪問  
    ハッピーホーム チェンセン訪問  
    ハッピーホーム トン訪問  
27日(日) ハッピーホームの子ども達と交流  
28日(月) 国内線にてバンコクへ→車で国境を越え、  
カンボジアへ移動ハッピーホーム訪問  
29日(火) スラム地域にある幼稚園訪問  
30日(水) 子ども達との交流後、車にてバンコクへ移動→バンコク発機内泊  
31日(木) 朝 関空着



## 福原 みどりさん (右上写真)

いつも素晴らしい行動力で a cup of water の働きを引っ張って下さるみどりさん。  
20年前に初めてタイのハッピーホームを訪問し、何かしたいと思われたそうです。

2007年に NPO 申請の為に、タイの孤児院ハッピーホームを訪問してから4年。  
この度は、7人での訪問旅行となりました。

2009年のカンボジア訪問では、子供たち一人一人の写真を撮り、支援者の方々にお配りしました。今回、その子達はどうなっているだろう？と胸躍らせながら会いました。彼らはしっかりと成長し、相変わらずの笑顔で迎えてくれました。そればかりではなく、そこでは8人子供が増えていました。スラムの子供を約200名預かり、プレスクールも開かれています。そこでも人数が増え、周りの評判が良くなっているそうです。私達が配るクッキーやアイスクリームをとにかく喜び、プレスクールに入れぬ子に分け与える姿が印象的でした。

ローズさんは行くホーム全ての子供たちに a cup of water の支援の事、私達のことを説明され、遠い日本でも助けてくれる人達がいることを受け取っている事が彼らの人懐っこい純粋な態度で分かりました。これからどんな支援ができるのか、また広がるのか、とても期待できる旅でした。



## 山川 直子さん

今回、思い切ってタイ・カンボジア訪問への参加を決意したという山川さん。  
デザインが得意な山川さんは、いつも心あたたまるイラストを描いて、a cup of water の働きを支えています。  
現在 a cup of water のリーフレットをデザイン中。

カンボジアのスラムに最初に行った時涙が出ました。理由はわかりませんが、やはりこんなにゴミが沢山あるところに人が住んでいる事が信じられなかったし、自分が今まで知らなかった事、そのままにしている事がいやだったのだと思います。スラムの中にあるプレスクールの子供たちは、とても元気でした。私から見た視点ですが、一番過酷な生活をしている彼らが一番生きる力、喜びにあふれていたことに驚かされました。子供たちの手は力強く、走っているだけでこんなにもうれしいんだと表現してくれています。えっ、そんなにうれしいの！？とびっくりしました。塾に行くために1人で電車に乗ってゲームをしている子供と、小さな部屋で身を寄せ合いながらつながりを感じている彼らとどちらが幸せなのかわからなくなりました。物質面での苦労ははかりしれませんが、精神的には彼らのほうが豊かなのではないのでしょうか。よく言われる事ですが、物質の豊かさは人間を必ずしも幸せにしないのだな、とやはり思わずにはいられません。

私達は物質的に恵まれていない地域に住んでいる子ども達はかわいそうだと思いがちですが、子供達を見ていて、幸せかどうかは生きている本人が感じる事であって、それ以外が判断する事ではないと思いました。子ども達は幸せを表現し、タイやカンボジアで一生懸命生きている人の顔は美しかったです。

スラムで生活をしている人々にとって教育を受けられる場であり、子どもたちの笑顔があふれるプレスクールは光のような存在ではないのかな、と思いました。

スラムを訪問して、彼らが抱えている貧しさや困窮が自分とはかけ離れたものだとは全く思えませんでした。むしろ私たちの問題、私のことになりました。ここに来たから初めてわかったことです。スラムの子供たちの学校を卒業した後がとても気にかかったし、そこに住む人々の生活も良くなってほしいと強く思いました。それには、現状を知り、できることを考えたいと思いました。

プレスクールの学年を増やすこと、スラムに住む人への仕事の提供などです。

カンボジアには必要がまだまだあると感じました。

ハッピーホームでは、ローズさんのサポート、規則正しい生活、キリスト教の教えがしっかりと子供たちに根付いて、それが良い影響をもたらしている事を実感しました。小さな子供が目をつぶって懸命に賛美歌を熱唱している姿に心を打たれました。子供たちは大人のように敬虔でした。こんなに小さいのに気を配ってくれたり、自分たちで洗濯物を干したり、みんなで分け合ったり。子ども達は、大人が話すときには、信じられないほど耳を傾けて集中して聴きます。血の繋がった家族がいなくても年上の子供が小さい子供の面倒を見たり、お互いを支えあって生活していました。





## 小堀 紫苑さん

現在大学で作業療法士になるための勉強をしている大学生。

作業療法士は身体の機能の回復とともに、人々の心のケアにも関わる仕事です。将来は心のケアの技術を貧しい国にも広げたいと夢を語ってくれました。

私は今回、とにかく現地の状況を自分の目で見て肌で感じ、これから自分に何ができるのかを考えたと思い、初めてタイとカンボジアを訪れた。

また、今回の訪問の中でも、多少なりとも子供達に良いものをもたらし、自分も子供達から元気ももらいたいという気持ちもあった。

実際に現地に足を踏み入れてみて、目を背けたくなるくらいショックなこともあった。私が特に衝撃を受けたのは、タイとカンボジアの国境付近で道の脇にいた物乞いの人、カンボジアのスラム街のごみ山、そして、ホープセンターの女性が涙ながらに今までの悲惨な暮らしと救われたことへの感謝を語ってくれたことだ。胸が詰まるような思いで、言葉が出なかった。

私が目にしている状況はごく一部で、救われる人もごく一部で、今も多くの人が苦しんでいるのだろうと思った。しかしそんな中、どこへ行っても子供達の笑顔は無邪気で明るく、瞳はきらきらと輝いていた。

私は現地の言葉もほとんど分からないまま行ったが、子供達とは言葉なくとも、一緒に遊んでいるうちにたちまち打ち解けてしまう。そんな子供達の心の中には、ローズさんやスタッフ、友達、そして神様の愛があふれていて、少しずつ自分の状況を理解し、前向きに生きて行けるのだろう。

ただ、ベビーホームには、自分の状況が分からずずっと悲しげな顔をしている子も少なくなかった。もちろん、明るく振る舞っていても、癒えない傷を心に秘めている子供達もいるのだと思う。そんな中で、幼い子がさらに幼い子の面倒を見て、貧しいからこそ分け合い、小さなことにも感謝し、1本の鉛筆とノートをにぎりしめ、いきいきと学んでいた。物もお金も教育も限られているけれど、むしろ日本の子供達より心は豊かだと感じた。

今回の訪問を通して、まだまだ支援が行き届いていない人達へ輪を広げていくこと、また、心の傷を秘めている子供達へのさらに丁寧なケアを進めることの必要性を感じた。

これから、私が学んでいる作業療法の専門知識や技術をさらに磨き、美術や工芸、音楽などをもっと取り入れることで子供達の自己表現の場を増やし、心身のケアの手助けをできれば、と思う。

しかし、私がすぐに行動できる1番大切なことは、物質的に豊かで誰でも教育を受けられる日本にいる子供達、次から次にお菓子やおもちゃが手に入り、それに慣れて感謝の気持ちが鈍り、勉強を嫌々ながらやらされていると感じている子供達に、私が見てきたことを伝えることだ。私は学習塾のアルバイトもしているが、「親に怒られるから」「受験があるから」と勉強していたり、なぜ勉強するのかよく分からずに意欲が出ない子もいる。それは、点数や学歴で判断してしまう大人や社会の接し方の結果なのかもしれない。

すべての子供は愛を求めている。私自身、日々愛情を持って子供達に接し、一人ひとりの夢や個性を尊重し、優しさや感謝の心を育てていきたいと思う。

2010年度も皆様のご支援を本当にありがとうございました。



タイ・カンボジアのハッピーホームの子ども達は、皆様に支えられ、元気にそして思いやりの心をもった子ども達に成長しています。また地域の学校で教育を受け、将来の夢に向かって歩んでいます。

ある少年が成長して、ハッピーホームを出る前夜、ローズさんにきいたそうです。

「このお皿とスプーンをもらっていてもいい？」

ローズさんはその理由が分かりませんでした。「いいけど・・・なぜ？」

男の子は答えました。

「ハッピーホームで与えられた、ひとつひとつの食事に感謝しているから……」

ハッピーホームの子ども達は皆様のご支援に心から感謝しています。

(写真はタイから送られてきた感謝カードです。絵はタイの子どもが描いたものです。)

## ～今まだ困難な状況にある子ども達へ希望を！～

カンボジアでは、スラム地域にある幼稚園も訪ねました。タイとカンボジアの国境地帯の町にあるこのスラムに住む人々の多くは、リヤカーをひいて荷物を運ぶなどの仕事をして、一日1ドルにも満たない収入で生活しています。

親が仕事をしている間、保育園に預けることができれば、子ども達は犯罪や人身売買などの危険から守られます。

ローズさん達がこの幼稚園の働きをはじめてから、スラムに住む人々が教育の大切さを知り、子ども達を学校に行かせたいと思うようになったそうです。

2009年8月には120人だった生徒の数が、200人にまで増えていました。

人数が多いので、午前の部・午後の部の2部制にわけてクラスが行われます。

最初は幼稚園クラスだけでしたが、保護者からの希望があり、小学校1・2年生のクラスもはじまりました。

私達は幼稚園の子ども達にクッキーをプレゼントしました。大喜びで食べる子ども達ですが、よく見ていると、幼稚園の敷地の外にいる友達にクッキーを分けてあげる子、家にいる弟や妹にあげるのでしょうか、家へ持って帰る子どもの姿がありました。

様々な事情により、まだ多くの子どもが幼稚園・小学校に通うことができません。遠くない将来、a cup of water はこうした子ども達へも経済的支援を行いたいと願っています。



## ～ お知らせ ～

### ① 2012年 タイ ハッピーホームと山岳民族を訪ねる旅

2012年、タイのハッピーホームと子ども達の出身コミュニティである、山岳民族の村を訪ねる旅を計画中です。

山岳民族の人々と心の交流を持ち、また彼らの抱える問題をより深く理解することができればと願っています。

日時は現在調整中ですが、参加にご興味がある方は是非ご連絡下さい。

2012年3月末かそれ以降を検討しています。

### ② 会費の自動引落ができるようになります。

ゆうちょ銀行の振替口座に毎月お振込を下さっている方には、大変お手数をおかけしております。

ゆうちょ銀行のお口座より毎月自動引落にて会費のお支払が可能になります。お申込み用紙を送付させていただきますので、ご希望の方はご連絡下さい。

### ③ ハッピーホームの子どもの写真をプリントしたマグカップ販売予定！！

「マグカップを毎日使って、子ども達のことをもっと身近に感じてほしい・・・。」そんな願いを込めて作ります。 ↓この写真をプリントする予定です☆



**子ども達の輝く笑顔に思わず微笑んで  
しまいます。**

**販売価格 800円**

**まずは50個つくります。**

**1個につき、100円の収益は子ども達の  
支援のために使われます。**

#### 特定非営利活動法人 a cup of water

TEL & FAX 075-962-4249 メールアドレス [info@acupofwater.jpn.org](mailto:info@acupofwater.jpn.org)

〒618-0022 大阪府三島郡島本町桜井4丁目23-24 ニューライフキリスト教会内

ホームページ <http://acupofwater.jpn.org/>

会費・寄付金など 郵便振替 00950-8-107412

三井住友銀行 高槻支店 普通2680218

☆会員になって下さる方を募集しています。月々のご支援は1口¥1500～

連絡先をFAXかメールにてご連絡くだされば、こちらから詳しい資料をお送りします。